

Bangladeshでのユーグレナクッキー配布数が累計 1,500 万食を突破！ コロナ禍の1年半の休校を乗り越え、Bangladesh 13 県で展開

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、Bangladeshの子どもたちに豊富な栄養素を持つ微細藻類ユーグレナ入りクッキー（以下、「ユーグレナクッキー」）を無償で配布して栄養問題の解決を目指す「ユーグレナ GENKI プログラム」において、2014年の開始以降からこの度2022年12月15日の配布分をもって、ユーグレナクッキー配布数が累計1,500万食を突破したことをお知らせします。



ユーグレナクッキーを食べる子どもたち



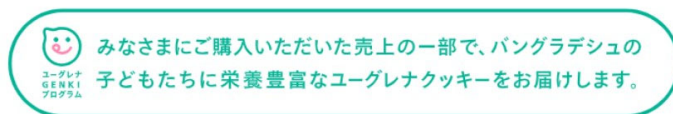
コロナ禍の1年半の休校が終わり、学校の再開を喜ぶ子どもたち

当社は、社長の出雲が、学生時代に訪れたBangladeshで栄養失調に苦しむ子どもたちを目の当たりにし、栄養問題解決を決意したことがきっかけで創業した会社です。「彼らが、健康になれるような食べ物をみつきたい」という思いで日本に戻った出雲が会ったものこそ、豊富な栄養素をバランスよく持つ微細藻類ユーグレナでした。

当社は、この創業のきっかけであるバングラデシュの子どもたちの栄養問題解決を目指して、2014年4月に「ユーグレナ GENKI プログラム」を開始し※1、バングラデシュの子どもたちに特に不足している栄養素 1 日分が 1 食分で摂取できるユーグレナクッキーを、現地の子どもたちに無償で配布しています。この「ユーグレナ GENKI プログラム」の活動は、ユーグレナ・グループの全商品およびパートナー企業のプログラム対象商品をお買い上げいただいた際の売上の一部を協賛金として充てることで運営しています※2。

※1 ユーグレナ GENKI プログラム：<https://euglena.jp/genki/>

※2 このほか 2017 年 9 月より、一部の小学校の子どもたちに関して、現地の NGO や学校の方々にユーグレナクッキー 1 袋あたり 4 円をご支援いただいています



対象商品に入る「ユーグレナ GENKI プログラム」のロゴとバングラデシュで配布しているユーグレナクッキー

「ユーグレナ GENKI プログラム」では、通常時にはプログラム対象となっている学校の子どもたちにユーグレナクッキーを配布していますが、特別な支援が求められる事態に対しても臨機応変に対応してきました。2017 年にミャンマーから避難してきたロヒンギャ難民がバングラデシュで増え始めた頃、20 万食の特製ユーグレナクッキーをロヒンギャ難民の難民キャンプへ届けました※3,4。また、2020 年に新型コロナウイルス感染症拡大の影響でバングラデシュの学校が 1 年半にわたり休校になった時には、プログラム対象校に通う子どもたちの家庭が多く含まれる首都ダッカのスラム街の住民に、ユーグレナクッキー 40 万食を無償配布しました※5。さらに、プログラム対象校と協力し配布方法を工夫して、休校期間中にも多くの学校にユーグレナクッキーを届けてきました。

※3 この 20 万食は協賛金からの拠出では無いため、累計配布数 1,500 万食には含んでいません

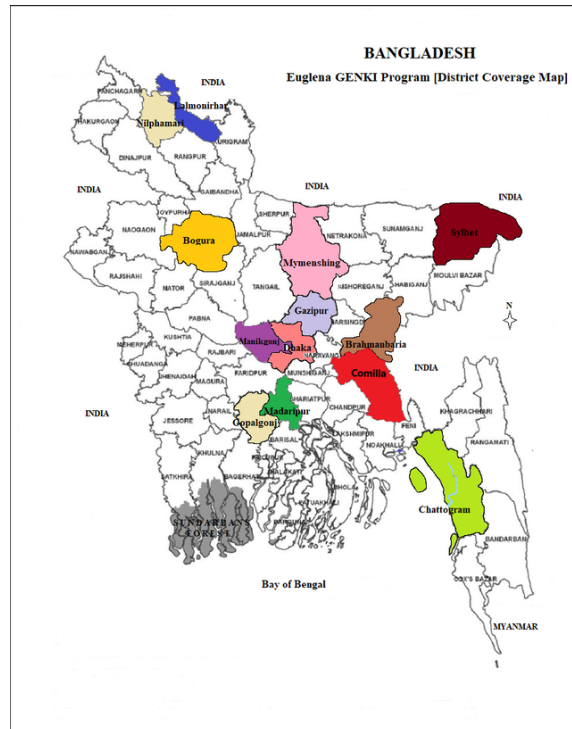
※4 ユーグレナプロジェクト「ロヒンギャ難民の食料問題解決に貢献せよ」<https://www.euglena.jp/times/archives/14420>

※5 2020 年 6 月 16 日リリース <https://www.euglena.jp/news/200616-2/>

2021 年 9 月に休校期間が終わり学校は徐々に再開しましたが、支援組織からの寄付金の減少や価格高騰などにより、財政難に直面する学校が増えてきました。「ユーグレナ GENKI プログラム」の対象校の中にも閉校を余儀なくされ、子どもたちにユーグレナクッキーを届けられなくなることもありました。そのような状況下でも私たちは、「子どもたちの栄養問題解決に貢献し続けたい」という強い思いの下、プログラム対象校と共に、プログラムの活動の再開や継続のために新たな支援組織に働きかけて資金を得るなど、どのような困難な状況でも歩みを止めずに取り組んでいます※6。

また、首都ダッカから始まった「ユーグレナ GENKI プログラム」は、現在はダッカだけでなく地方の 12 県にも広がり、提携校は 106 校に増え、1 日約 1 万人の子どもたちにユーグレナクッキーを届けることができています。こうした継続的な取り組みを経て、この度 2022 年 12 月 15 日の配布分をもって、ユーグレナクッキーの配布数が累計 1,500 万食を突破しました。

※6 「ユーグレナ GENKI プログラム」レポート 2021 年 11 月 <https://www.euglena.jp/times/archives/17882>



首都ダッカを含む、合計 13 県で「ユーグレナ GENKI プログラム」を展開

当社は、今後もいかなる事態にも臨機応変に対応し、バングラデシュの子どもたちの栄養問題解決を目指した取り組みを継続していきます。

【ユーグレナ GENKI プログラムの歩み】

2014 年 4 月：

首都ダッカの小学校にて、約 2,000 人のスラム地域に住む子どもたちを対象にユーグレナクッキーの無償配布を開始。

2016 年 4 月：

「ユーグレナ GENKI プログラム」の効果測定を行うため、血液検査・身体測定を開始。

2017 年 9 月：

「ユーグレナ GENKI プログラム」の活動内容に賛同いただいた現地の NGO や小学校に、クッキー 1 袋当たり 4 円を支援いただく新しい運営モデルを開始。

2017 年 12 月：

ロヒンギャ難民への食料支援として特製ユーグレナクッキー 20 万食を配布。

2018 年 2 月：

バングラデシュ全国展開に向けた一歩として、ダッカ郊外の学校でプログラムを開始。

2019 年 4 月：

「ユーグレナ GENKI プログラム」5 周年を機に、対象商品をユーグレナ・グループ全商品に拡大。

2020 年 3 月：

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、現地の学校が休校。対象校の子どもたちは、初めて長期間、ユーグレナクッキーの配布を受け取れない事態となる^{※7}。

※7 ただし、ユーグレナクッキーが校内在庫としてあったため、学内に生徒宿泊施設を持つ学校は在庫が無くなるまで支給。各学校で生徒の登校日を決めて、ソーシャルディスタンスを保ちながら配布した実績あり

2020年6月～7月：

都市封鎖（ロックダウン）などの影響で食料不足と価格高騰に悩むダッカのスラム街住民に食料支援としてユーグレナクッキー40万食^{※8}を配布（配布期間：6月11日～7月5日）。

この配布を以て累計1,000万食を突破。

※8 40万食は、休校開始となった3月17日から5月末までのユーグレナクッキー未配布分の全数量に相当する

2020年9月：

上記40万食配布時に協力を受けたオーバットヘルパーズ（OBAT Helpers）が運営する学校に通う子どもたちに食料支援としてユーグレナクッキー10万食を配布^{※9}（配布期間：9月5日～9月25日）。

※9 配布方法は、学校で配布日を設定し生徒に登校してもらい、校内で教師から直接手渡しでの配布

2021年3～9月：

新型コロナウイルス感染症による休校は544日にわたり継続。当期間中は2週間に一度15日分のユーグレナクッキーをまとめて子どもたちに配布。

2021年10月～：

休校が解除され、ロックダウン前と同様、原則平日の毎日1日約1万人の子どもたちにユーグレナクッキーを配布。

2022年3月～：

新たな地方でのユーグレナクッキー配布が決定し、配布地域が13県、対象校は106校と拡大。

<株式会社ユーグレナについて>

2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。

<https://euglena.jp>